

第2部 新しく生まれた曲のコンサート

4/17(土) 18時半開演
<大集会室(メインホール)>

♪夜の部は、それぞれつい最近お披露目された「新作」ばかりのコンサートです。

1. アンサンブルエヴォリュエ【混声・大阪】指揮：飯沼京子 ピアノ：熊谷啓子

混声合唱とピアノのための「ひとつの歌にも」 風のマーチ・歌のように・すてきなひとりぼっち・青空のパラド・ひとつの歌にも(谷川俊太郎作詩・石若雅弥作曲)

解説：「うた」をテーマに石若雅弥さんをお願いをした、アンサンブル エヴォリュエ初の委嘱作品です。「団の愛唱歌としても歌い継がれ、更にさまざまな形で団外にもひろがっていくように」という私達の想いに対して、石若さんは谷川俊太郎さんの「歌の本」という「作曲され歌われることを前提とした詩」を集めた詩集から詩を選び、丁寧に曲を書いて下さいました。先月初演を終えたばかりで、再び演奏できる事がとても嬉しく、是非皆様に聴いていただき、歌い広げていただければと願っています。

<初演データ：2010年3月13日 いずみホール 指揮：飯沼京子 ピアノ：熊谷啓子 演奏：アンサンブルエヴォリュエ>



2001年“寄せ集め大学生合唱団”として結成。2004年より学生の枠を取り払い一般合唱団へ。現在、団員は、福井・愛知・岐阜・滋賀・京都・奈良・大阪・和歌山・兵庫・広島・愛媛に及ぶ。取り上げる作品は、ルネッサンス時代から近現代までの外国曲、日本の叙情歌や合唱曲など多岐にわたる。団員全ての共通点は「うたうことを最大限まで楽しむ」姿勢。大阪府合唱祭や関西合唱コンクールに出演しているほか、デイサービスセンターへの訪問演奏などを行っている。2009年には初めてのクリスマスコンサートを開催。エヴォリュエとはフランス語で「進化する」の意味。



飯沼京子 (指揮者)

神戸女学院大学音楽学部音楽学科声楽専攻卒業。関西を中心に多くの合唱団の指揮者やトレーナーを務め、リサイタル、コンクール、演奏旅行等の場で数々の成果をあげているほか、客演指揮、審査員、講習会の講師等、活動は多岐にわたっている。歌手としては、2007年に信長貴富作曲「思い出すために」独唱版(高声用)初演を行う。



熊谷啓子 (ピアノ)

神戸女学院大学音楽学部ピアノ専攻卒業。同大学研究科修了。1988年、1990年にブルガリア国立室内オーケストラ、2000年関西フィルハーモニー、2002年ロシア・エカテリーナ宮廷室内オーケストラと協演。合唱団の伴奏者としても全日本合唱コンクール等の場で活躍。

2. 女声合唱団クローバー・エコー【女声・兵庫】指揮：太田 務 ピアノ：河村章代

女声合唱とピアノのための「良寛相聞」手まり・君や忘る道・相聞II/夢の世に(良寛・貞心尼作詩・千原英喜作曲)

解説：好意の持ちあつた男女が取る行為の中で、古今東西「相聞」の様に感情豊かで、かつ文学的なものがあるだろうか。歌集「はちすの露」には40ほど歳離れた良寛との「あいぎこえ」が貞心尼の手で書きしたためられている。互いの想いをダイレクトに伝えつつも、それらの歌には神宗の僧侶らであるが故の宗教観が巧みに随所に織り込まれ、歌いあいつつ互いの精神を高(貴)みに導きあつたに違いない。二人の「あいぎこえ」を千原氏は雄弁に力強く、繊細に美しく楽音として織り上げている。千原イズムの溢れるこの作品、合唱を嗜む方々には是非能動的に体験して頂きたいものである。

<初演データ：2009年9月27日 兵庫県立芸術文化センター大ホール 指揮：千原英喜 ピアノ：河村章代 女声合唱団クローバー・エコー創立35周年記念演奏会>



1975年4月、兵庫県の西宮市と宝塚市で活躍していた四つの女声合唱団が一つになり幸を呼ぶ四つ葉のクローバーをイメージに、女声合唱団クローバー・エコーと命名発足。毎年開催のレディースコーラスフェスティバル、兵庫県合唱祭、西宮市宝塚市合唱祭に出演し、二度の海外演奏旅行も経験。1991年から15年間、故浦山弘三氏に日本語の美しい歌い方の指導を受ける。2006年11月より太田務氏を指揮者に迎え、2008年8月には「全日本おおかさんコーラス」全国大会に兵庫県代表として10回目の出場を果たした。昨年9月創立35周年記念演奏会を開き、作曲家千原英喜氏に混声合唱曲「良寛相聞」の女声版を委嘱し、初演を作曲家自らの客演指揮で演奏した。



太田 務 (指揮者)

米国Westminster Choir Collegeにて合唱指揮修士号(Master of Music in Choral Conducting)、University of Illinois at Urbana-Champaignにて合唱指揮・合唱史の博士号(Doctor of Musical Arts in Choral Conducting and Literature)取得。主に東京・大阪・神戸で合唱指揮者・指導者として活動中。



河村章代 (ピアノ)

大阪音楽大学音楽学部ピアノ専攻卒業。同大学専攻科修了。卒業演奏会に出演。在学中にピアノグランドコンサートにてオペラハウス管弦楽団と協奏曲を協演。なにわ芸術祭、ジョイントリサイタルなどソロ・声楽・合唱・管楽器の伴奏で多数の演奏会に出演。

3. 合唱団Vivo【混声・兵庫】指揮：上田祥行 ピアノ：西山淳子

組曲「KOIUTA」 Hito wa isa (ひとはいさ)・Kimi ga tame(きみがため)・Ai mite no(あいみでの)・Mikakimori(みかきもり)・Aki kaze ni(あきかぜに)(S.Dobrogosz作曲)

Steve Dobrogosz氏はスウェーデンの作曲家である。彼は大変な日本好きで、この『KOIUTA』は小倉百人一首を題材に作曲したものである。昔の歌人が詠み、現代の私たちが理解し、海外の作曲家が作ったこの曲は、人の想いが昔も今も、そして国や文化によらず普遍であることを我々を実感させてくれる、そんな温かい曲である。作曲にあたっては、日本語の一つ一つのイントネーションよりも、音の組合せによって喚起されるイメージが重視されている。「男」と「女」の音が掛け合い、重なり合って、一つの音となって昇華していく様を楽しんでいただきたい。

〈初演データ：2010年3月6日うはらホール 指揮：上田祥行 ピアノ：西山淳子 合唱団Vivo第7回定期演奏会〉



2001年結成。関西の大学生から20代のメンバーを中心に活動している。「生き生き」という「Vivo」の言葉の通りの歌を歌い上げることを目標に、様々な活動を精力的に実行している。第64回関西合唱コンクール金賞受賞、第10回KOVVOXで総合1位を獲得する等の実績を持ち、これまで7回の演奏会のほか、他の合唱団とのジョイントコンサート、S. Dobrogosz氏を迎えての2度の演奏会を開催。S. Dobrogosz作曲「Kyrie (D. Minor Massより)」「ZAKURO(委嘱曲)」、横山智明作曲「しごと(委嘱曲)」などを初演するほか、多くの外国曲の日本初演を行い国内に紹介している。



上田祥行 (指揮者)

斎藤流指揮法を伊吹新一、合唱指導法を鈴木成夫、合田芳弘、発声法を小林正夫の各氏に師事する。第2回Eric Ericson国際合唱指揮者コンクールで、日本人として初めてQuarter Finalに進出。現地マスメディアに指揮技術が高く評価された。現在、大学合唱団での客演指揮者などとしても活動している。



西山淳子 (ピアノ)

桐朋学園大学ピアノ科、同大学院大学修了。英国王立音楽院(Royal Academy of Music)演奏家コース修了。国内外の国際コンクールで受賞歴多数。アーティスト・インターナショナルオーディションにてSpecial Presentation Award賞を受賞し、NYカーネギー・ホールでデビュー・リサイタルを開催。ニューヨーク・コンサートレビュー誌は「品格ある演奏」と高く評価。

4. 合唱団ボイスフィールド【混声・兵庫】指揮：西牧 潤 ピアノ：高橋玲子

合唱組曲「あなたにあいたくて生まれてきた詩」(ピアノ伴奏版初演)

あなたにあいたくて生まれてきた詩・雲は雲のままに流れ・あげます・きりん・風のうた(宗左近・工藤直子・谷川俊太郎・天野忠・安水稔和作詩、千原英喜作曲)

解説：この作品は昨年作曲された「管弦楽と混声合唱のための合唱組曲「あなたにあいたくて生まれてきた詩」が基になっており、テキストは新潮文庫刊の「あなたにあいたくて生まれてきた詩」から5つの詩が自由に選ばれて(一つはこの本の「まえがき」)います。ある時は山下達郎風に、またある時は美空ひばり風に、初演時の演奏が子どもから熟年まで幅広い年齢層による混声合唱であったことから、さまざまな人たちに共感を持って歌われる曲作りがされています。この曲集の最後に置かれた「風のうた」は阪神淡路大震災の3年後に書かれています。安水稔和氏は今も神戸長田にお住まいですが「手をあげるひとのために、声あげるひとのために、歩き出すひとのために、目のまへのひとのために、今、光る時間のまんなかで、思いをつくして。」これは今を生きるすべての人々への優しい賛歌です。今回はそのピアノと混声三部合唱版の初演です。

〈初演データ 2009年11月27日(土)/28日(日) 神戸新開南方ホール/芦屋1ホール 指揮：西牧 潤 管弦楽：芦屋交響楽団 合唱：芦屋合唱協会・甲南大学グリークラブ・武庫川女子大学コーラス部・神戸女子大学コーラス部・大阪経済大学グリークラブ〉



1977年7月、兵庫県立芦屋高等学校コーラス部のOBを中心として結成。以後も兵庫県芦屋市に本拠を置き活動を続けています。「世界中を歌声の野原にしたい」という願いから『合唱団ボイスフィールド』と命名、年一回の定期演奏会を活動の中心に据え、定期演奏会の他にも合唱祭、クリスマスコンサートなどを通じて合唱をお客様とともに楽しむことを目標に活動しています。2001年以降は芦屋市民オペラのコア・合唱団としても活動し、メンバーは大学生からおじさんおばさんまでの約40名、毎週日曜日の夜芦屋に集っています。シアターピース作品の演奏や、世界中のさまざまな国や地域の合唱音楽を演奏するなど幅広いレパートリーを持っています。



西牧 潤 (指揮者)

甲南大学理学部応用物理学科卒業。指揮を小林研一郎、斉田好男の両氏に学ぶ。オペラの指揮、オーケストラを伴う合唱作品の演奏など、合唱にとどまらない幅広い演奏活動を目指し、芦屋市・宝塚市を中心とした地域の音楽活動の振興にも力を注いでいる。作曲家 青島広志氏とシアターピース作品の上演に力を注ぐ一方、宝塚少年少女合唱団とアメリカ・カナダ・フィンランドへ・ハンガリーなどへの演奏旅行を行う。



高橋玲子 (ピアノ)

兵庫県西宮市生まれ。神戸大学発達科学部人間行動表現学科音楽表現論コース卒業。ピアノを右近恭子、坂東肇、ステファン・サヴェジンの各氏に、声楽を佐々木倫子氏に師事。合唱団のピアニストとしての活動のほか、2002年以降、芦屋市民オペラで稽古ピアニストとして上演の成功に貢献している。

5. 女声合唱団エオリアン【女声・兵庫】指揮：洲脇光一 ピアノ：田中美佐子

女声合唱とピアノのための『ハッシャバイ・ソングス』から おんばえやれや・イヨニルカ(山形県の伝承詩より・北海道の伝承詩より・石黒晶作曲・編曲)

女声合唱のための『わらべうたのカタログ』から だんだんうた・はみがきうた・まんじゅう・であるとあるで(谷川俊太郎作詩・石黒晶作曲)

解説：『ハッシャバイ・ソングス』は北海道から沖縄まで、日本の子守歌5曲を前奏曲、間奏曲を加え7曲で纏められたもの、合唱と伴奏ピアノが競い、また支えあうコラボレーションの見事な曲です。『わらべうたのカタログ』は谷川俊太郎の11編の詩から作曲された多彩な10曲のア・カペラ合唱作品で、曲数、曲順、演奏形態を自由に演出する事が出来る曲です。楽譜は4月1日カワイ出版より出版、また、両曲をCD【「であるとあるで」石黒晶女声合唱曲集】として Giovanni Recordsより3月にリリースされております。

＜初演データ 「ハッシャバイ・ソングス」女声合唱団 2008年6月8日北とびあさくらホール 指揮：樋本英一
演奏：慶応義塾ワグネル・ソサィエティー女声合唱団(JCDA合唱の祭典2008第9回北とびあ合唱フェスティバル)
「わらべうたのカタログ」2008年3月29日いづみホール 指揮：洲脇光一 女声合唱団エオリアン創立25周年記念演奏会
『はみがきうた』『ほったのはらに』 2010年1月19日 三田郷の音ホール(CD録音) 指揮：洲脇光一 合唱：女声合唱団エオリアン＞



1983年発足。恩師洲脇光一先生より、「風の神アイロスの奏でるエオリアン・ハーブのような温かく美しい響きをした団であれ」と命名していただく。1999年常任指揮者として、洲脇光一先生をお迎えする。2001年より全日本おおかあさんコーラス全国大会に5回出場。ひまわり賞受賞。2008年3月創立25周年記念演奏会をいづみホールにて開催。2010年3月CD「であるとあるで 石黒晶 女声合唱作品集」を発売。



洲脇光一 (指揮者)

関西学院大学商学部卒。米国南メソジスト大学(SMU)芸術学部音楽科大学院修了、宗教音楽と合唱指揮を専攻。関西学院グリークラブ、新月会、甲南女子大学コーラス部の指揮者、全日本合唱連盟常務理事、兵庫県合唱連盟理事長、国際合唱連合(IFCM)副会長を歴任。1994年兵庫県文化功労賞、2001年長井賞受賞。



田中美佐子 (ピアノ)

甲南女子大学英文学科卒業。ピアノを伊藤ルミ・龍野順義・故東貞一に、オルガンを土橋薫、久保田清二の各氏に師事。1990年宝塚ベガ・ホールにてオルガンリサイタルの他、大阪カテドラル聖マリア大聖堂、奈良基督教教会、東梅田教会等のコンサートに出演。

6. 淀川混声合唱団【混声・大阪】指揮：伊東恵司 ピアノ：細見真理子

さすらう若人の歌(G.Mahler作詩・作曲・大竹くみ編曲)

Wenn mein Schatz Hochzeit macht・Ging heut' morgens ubers Feld・Ich hab' ein gluhend Messer・Die zwei blauen Augen

解説：原曲はマーラーの作詞作曲による連作歌曲であり、マーラーが自身の悲恋に触発されて作られたと言われている。交響曲第1番「巨人」にこの旋律が引用されている。失恋の悲しみの歌から始まり、自然の美しさを歌い、苦しみによる激情を経て、終曲では葬送行進曲のリズムに乗せて彷徨い歩き、菩提樹の下でまどろむ。ここでの菩提樹は東洋的・仏教的な象徴であり、行き詰まりを覚えてつづあった当時のロマン派音楽が新たな境地を模索していることの表れでもある。福永陽一郎による男声合唱の名アレンジが有名だが、カワイ出版の委嘱、大竹くみ編曲による混声版を今宵初演する。



1985年9月に創団。10代から70代までの幅広い年齢層が集まっている。創立から3人の指揮者を経て、1991年から伊東恵司が指揮者に就任。合唱のさまざまな可能性を求めた精力的な活動を模索し、本山秀毅、松下耕、雨森文也、藤井宏樹、飯沼京子、松原千振らを客演指揮者として迎えるほか、信長貴富「くちびるに歌を」(混声版)、北川昇「シャガールと木の葉」、「うたふやうにゆつりと……」を委嘱初演するなど、新しい曲を創造する取り組みも行っている。関西合唱コンクール7年連続金賞を受賞、全日本合唱コンクールでは金賞1回、銀賞3回を受賞している。ジョバンニより「邦人作曲家による混声合唱作品集 よどこん名演集Vol. 1」などのCDが発売中。



伊東恵司 (指揮者)

P4サンンプルVine参照



細見真理子 (ピアノ)

兵庫県立神戸高等学校卒業。大阪教育大学専攻科ピアノ科修了。関西学院グリークラブ・混声合唱団はもーるKOBÉ・神戸女子大学コーラス部・淀川混声合唱団・合唱団天上花火他多くの合唱団の伴奏者として活動中。また千原英喜「銀河の序」、信長貴富「くちびるに歌を」(混声版)、「讃歌」、北川昇「うたふやうにゆつりと……」の委嘱初演、joint演奏会の合同演奏等、多数のステージに出演。ピアノを宮本弘子・瓜原一勲の各氏に師事。